Journal of Hyogo University of Health Sciences. Vol. 8, No. 2, pp.7-10, 2020

実践報告

第10回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー実践報告

川口浩太郎[1)]、曽田幸一朗[2)]、三島淳一[2)]、平上尚吾[1)]、塚越累[1)]、岡田誠[3)]、尾垣奈穂[3)]、山﨑せつ子[1)]、片山覚[4)]、道免和久[5)]

1）兵庫医療大学リハビリテーション学部、2）兵庫医科大学病院リハビリテーション部、
3）兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、4）兵庫医科大学ささやま医療センター、
5）兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

The Practice Report: The Tenth Annual Seminar of Rehabilitation Medicine in Hyogo College of Medicine Educational Foundation

Kotaro KAWAGUCHI[1)] , Koichiro SOTA[2)] , Jyunichi MISHIMA[2)] , Shogo HIRAGAMI[1)] , Rui TSUKAGOSHI[1)] , Makoto OKADA[3)] , Naho OGAKI[3)] , Setsuko YAMASAKI[1)] , Satoru KATAYAMA[4)] , Kazuhisa DOMEN[5)]

1）School of Rehabilitation, Hyogo University of Health Sciences
2）Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Hospital
3）Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Sasayama Medical Center
4）Hyogo College of Medicine Sasayama Medical Center
5）Department of Rehabilitation Medicine, Hyogo College of Medicine

抄　録

「第10回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー（以下、合同セミナー）」が2019年8月31日、兵庫医療大学オクタホールにて開催された。合同セミナーは、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の情報共有と相互研鑽を図ることを目的として、2010年から毎年開催されている。今回の合同セミナーには、学校法人兵庫医科大学でリハビリテーション医療に関わる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、兵庫医療大学学生・大学院生も含め、法人内外から211名の医療専門職者が参加した。今回は第10回目という節目の合同セミナーであるとともに、理学療法士・作業療法士の教育の根幹にある「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が約20年ぶりに改正された年でもあるため、「医療人育成」をキーワードとした基調講演、シンポジウムを開催した。基調講演として、当法人医療人育成研修センター長である鈴木敬一郎先生からは「学校法人兵庫医科大学が考える医療人育成について」、公立大学法人山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科長の藤井浩美先生からは「これからのセラピスト教育」というテーマで基調講演が行われた。また、「これからの卒前・卒後教育を考える」というテーマでシンポジウムが行われ、医師の立場、医療機関で働くセラピストの立場、教育現場の立場から卒前・卒後教育として実践していること、学生に望むことなどについて意見交換がな

受付日：2020年7月17日　　受理日：2020年11月2日
別冊請求先：川口浩太郎　〒650-8530　神戸市中央区港島1-3-6　兵庫医療大学　リハビリテーション学部

された。今回の合同セミナーを通じて、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設が考える医療人育成の一端が見え、これからの診療、研究、教育に関わる我々教職員は、今後も一層協働していく必要性を再認識した。

キーワード：学校法人兵庫医科大学、リハビリテーション、セミナー、実践報告
Key words：Hyogo College of Medicine Educational Foundation, Rehabilitation, Seminar, Practice Report

Ⅰ　はじめに

「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」(以下、合同セミナー）は、兵庫医療大学リハビリテーション学部一期生が卒業を迎えた2010年に初めて開催され、今回で10回を迎えた。合同セミナーは、兵庫医科大学病院リハビリテーション部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、そして理学療法士・作業療法士を養成する兵庫医療大学リハビリテーション学部が共同して、診療、研究、教育の三本柱をより強固にし、質の高いリハビリテーション医療を推進することを目的として開催されている。今回、第10回と節目の合同セミナーであるため､例年とはプログラムを変更して開催した。参加者は例年通りの学校法人兵庫医科大学内にとどまらず、学校法人兵庫医科大学連携病院や兵庫医療大学リハビリテーション学部の実習施設などから約200名の参加があり、学校法人兵庫医科大学が目指す医療人育成や今後のセラピスト教育について、活発な意見交換がなされた。

本報告では、第10回合同セミナーの開催内容と今後の展望などについて述べる。

Ⅱ　第10回合同セミナー

第10回合同セミナーは2019年8月31日（土曜日）に兵庫医療大学オクタホールで行われた。プログラムを資料1、合同セミナーの様子を図1、図2に示す。

基調講演

第10回合同セミナーでは2題の基調講演を開催した。

当法人医療人育成研修センター長である鈴木敬一郎先生には「学校法人兵庫医科大学が考える医療人育成について」と題して、学校法人兵庫医科大学が現在取り組んでいる「多職種連携教育」と「『痛み集学的診療』ができる医療者養成」を具体例として、兵庫医科大学と兵庫医療大学で行われている医療総合大学としての多職種医療人養成について講演していただいた。昨今の医療では「チーム医療」が当たり前のように実践されている。しかしながら、学生教育の中で実際に様々な職種を目指す学生が一同に介してともに学ぶ授業は全国的に見ても少ない。本法人では「兵庫医科大学・兵庫医療大学間で大学・学部の垣根を超え、ボーダレスな教育を行う。」こと、「両大学は連携してチーム医療の推進について研究を行い、情報を発信する。」ことを定めており、4学部合同のチーム医療演習などを行い、一定の成果を収めていることが報告された。また、「『痛み集学的診療』ができる医療者養成」としては、兵庫医科大学と兵庫医療大学が連携し、痛み教育センターを設立して「痛みの集学的診療」教育ができるシステムを構築し、新たな医療者教育を開始していることが報告された。

図1. 基調講演

公立大学法人山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科長の藤井浩美先生からは、「これからのセラピスト教育」というテーマで基調講演Ⅱとしてご講演いただいた。現在、日本の理学療法士（以下、PT）は約20万人で年間1.2万人、作業療法士（以下、OT）は約9.4万人で年間4.7千人、言語聴覚士（以下、ST）は約3.3万人であり年間約1.8千人増加している。このように各職種とも供給が増加傾向にある中、2019年4月には「PT・OT需給について」が公表され、PT・OTでは2040年までに供給が需要の1.5倍程度になることが推計されている。供給数の増加はサービス提供者の選択が可能となる一方で、PT・OT側にはより一層の質の向上が求められる。この最中、約20年ぶりに「PT・OT学校養成施設指定規則（以下、指定規則）」が改正され、PT・OTの質の向上に向けた対策がなされている。今回の指定規則改正では、学生が取り組む「臨床実習」の大幅なカリキュラム改正だけでなく、臨床実習指導者に対してもある一定の指針が提示された。セラピストも国民に選ばれる時代が到来しつつあり、卒前・卒後教育がより一層重要となること、卒前・卒後教育については養成校と臨床現場が協働して人材育成を図ることが重要であることをご教授いただいた。

第10回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナープログラム

2019年8月31日（土）
会場：兵庫医療大学オクタホール
司会：ささやま医療センターリハビリテーション室　岡田　誠

1. 開会の挨拶　14:00〜14:05
兵庫医科大学リハビリテーション医学教室　主任教授　道免　和久
2. 法人代表挨拶　14:05〜14:10
兵庫医科大学　理事長　太城　力
3. 基調講演I　14:10〜14:40
座長：兵庫医療大学リハビリテーション学部　教授　日高　正巳

医療人育成センター　センター長　鈴木　敬一郎
「学校法人兵庫医科大学が考える医療人育成について」

4. 基調講演II　14:40〜15:40
座長：兵庫医療大学リハビリテーション学部　教授　日高　正巳

山形県立保健医療大学　大学院保健医療学研究科長　藤井　浩美
「これからのセラピスト教育」

（休憩　15:40〜15:50）

5. シンポジウム：15:50〜17:20
テーマ「これからの卒前・卒後教育を考える」
座長：兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授　道免　和久
兵庫医療大学リハビリテーション学部　教授　山崎　せつ子

シンポジスト
医師の立場から
兵庫医科大学リハビリテーション科　内山　侑紀
セラピストの立場から
兵庫医科大学病院リハビリテーション部　岸　雪枝
ささやま医療センターリハビリテーション室　坂本　理恵
教育現場の立場から
兵庫医療大学リハビリテーション学部　川口　浩太郎

6. 閉会挨拶：17:20〜17:30
兵庫医療大学　学長　藤岡　宏幸

資料1　プログラム

シンポジウム

今回の合同セミナーでは「これからの卒前・卒後教育を考える」というテーマで、医師の立場から兵庫医科大学リハビリテーション科の内山侑紀先生、臨床現場のセラピストの立場から兵庫医科大学病院リハビリテーション部の岸雪枝主任、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室の坂本利惠室長、教育現場の立場から、兵庫医療大学リハビリテーション学部の川口浩太郎学部長の4名の先生にご講演いただいた。

医師の立場から、兵庫医科大学の内山医師は、卒前教育の現場に求めたい点として、「分からないことを分かっている能力」つまり「メタ認知能力」を培うことである。また、「メタ認知能力」を活用し「問題解決能力」を高めるように取り組むことが、正解が1つではない臨床現場や多種多様な社会現場でセラピストとして対応するために重要だとご講演いただいた。

臨床現場のセラピストの立場として、兵庫医科大学病院の岸主任は、臨床現場での学生教育として、現場セラピストに時間的・精神的な負担が多くなりすぎないように、院内だけでなく学校養成施設との緊密な連携が重要であることをご講演いただいた。また、兵庫医科大学ささやま医療センターの坂本室長からは、臨床現場における卒後教育として、入職後の経験年数に応じた教育指導内容プログラムを構築し、一定の水準を保った医療人育成を行っていることをご講演いただいた。

教育現場のセラピストの立場として、兵庫医療大学の川口学部長は、兵庫医療大学開学後の12年間を振り返りながら、兵庫医科大学と兵庫医療大学との合同

図2. シンポジウム

授業の有用性について、また、今後の卒前・卒後教育のあり方として、法人内で臨床力の優れたPT・OTの養成が重要であることをご講演いただいた。

様々な立場から、卒前・卒後教育を考える中で、現在、法人として取り組んでいる「多職種連携教育」の重要性を再確認することができ、臨床実習で指導する立場にあるセラピストを臨床現場、教育現場の医療者がどのように養成するかについて、緊密な連携やシステムの構築、またそのシステム等の再検討が重要であることを共通認識として確認できた。

Ⅲ　参加状況

参加者は211名であった。参加者の内訳は、学校法人兵庫医科大学太城力理事長、学校法人兵庫医科大学3施設教職員、学校法人兵庫医科大学連携病院の会リハビリテーションスタッフ、兵庫医療大学リハビリテーション学部実習施設および卒業生の勤務する施設、兵庫医療大学の学生・大学院生などであった。

Ⅳ　今後の展望

今回で10回目を迎えた合同セミナーは、例年とは趣向を変えたプログラムで開催された。参加者は学校法人兵庫医科大学内の教職員・学生に加え、関連施設や周辺施設から多数の参加者があり、これからの医療人・セラピスト育成について、講演内外で活発かつ発展的な議論が交わされていた。

今後も引き続き、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設の教職員は協働し、臨床を基盤とし共同研究を含めた臨床研究を通じて、3施設の「臨床・研究」の関係性をより深めるとともに、臨床実習をはじめとする「教育」においても具体的な発展に繋げていくことが重要であると考えられる。

本法人で行っている医学教育、特に「多職種連携教育」は全国的に見ても特徴的なカリキュラムであると言える。このような「多職種連携教育」にならって、医療者の発言だけではなく、リハビリテーション学部学生を交えた討議や、医学部生、看護学部生、薬学部生も交えた新たな展開を模索する時期に来ているかもしれない。

謝辞

このたび、第10回合同セミナー実践報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、兵庫医療大学リハビリテーション学部、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室および兵庫医科大学病院リハビリテーション部のスタッフの皆様に深謝いたします。